

令和元年度

第4回 区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会

次 第

日時：令和元年8月28日（水）
午後6時30分～午後8時30分
場所：麻布地区総合支所 2階
第3会議室

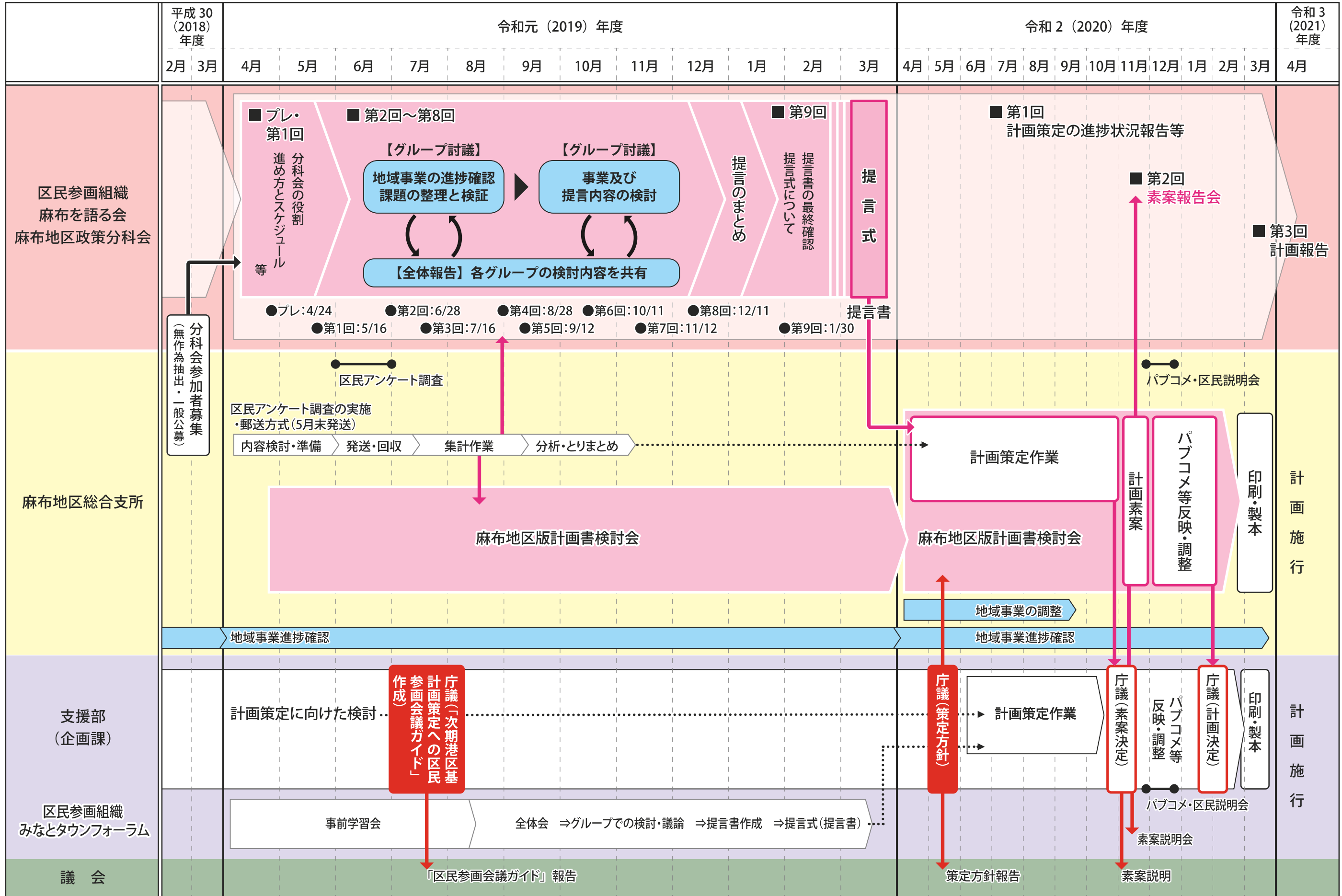
- 1 開会
- 2 次期麻布地区版計画書の策定に向けたスケジュールについて
- 3 区民アンケート調査結果の概要について
- 4 グループ討議（各地域事業の課題・提言作成に向けた方向性のまとめ）
- 5 全体討議（グループ討議の報告及び意見交換）
- 6 その他

【配布資料】

- 資料 1 次期 港区基本計画・麻布地区版計画書策定に向けたスケジュール（案）
資料 2 港区基本計画・麻布地区版計画書 麻布地区の取組に関するアンケート調査 結果速報概要
資料 3 令和元年度 地域事業の推進について（地域事業の進捗と課題等）
参考資料 各地域事業についての主な意見

次期 港区基本計画・麻布地区版計画書策定に向けたスケジュール（案）

Ver. 02（令和元年8月8日現在）



港区基本計画・麻布地区版計画書 麻布地区の取組に関するアンケート調査 結果速報概要

【目的】

港区基本計画・麻布地区版計画書 麻布地区の取組に関するアンケート調査は、令和3（2021）年度からの次期「港区基本計画・麻布地区版計画書（以下、「麻布地区版計画書」）」の策定に向け、麻布地区の取組について、広くご意見やご要望をお伺いし、麻布地区版計画書策定の際の基礎資料として活用させていただくために実施しました。

【概要】

- 調査対象 港区麻布地区内に住民登録する満18歳以上の人（外国人を含む）
- 標本数 1,500標本（うち外国人180標本）
- 標本抽出 住民基本台帳からの無作為抽出
- 調査方法 郵送配布・郵送回収
- 調査期間 令和元年5月31日（金）～6月30日（日）
- 有効回収数 341標本（うち外国人13標本）
- 有効回収率 22.7%（前回平成28年度調査の有効回収率は28.2%）
- 調査項目

1. 調査回答者の属性（ご自身について）
 - ・性別、年齢、居住地域、家族構成、居住年数等
2. 麻布地区版計画書及び区民参画組織について
 - ・麻布地区版計画書及び区民参画組織の認知度
3. 麻布地区総合支所が独自に取り組む事業（地域事業）について
 - ・9つの地域事業についての認知度と期待度
 - ・今後必要な取組内容と取組の具体的な提案
4. 地域とのつながりについて
 - ・町会・自治会等の地域活動への参加状況、参加意向等
5. 麻布地区総合支所の情報発信について
 - ・区や麻布地区総合支所が発信する情報の入手方法
 - ・地域SNSアプリの認知度と利用状況・利用意向
6. その他（自由記入）
 - ・地域コミュニティの活性化や麻布地区総合支所の取組についての自由記入

令和元年度 地域事業の推進について（地域事業の進捗と課題等）

次期麻布地区版計画書の策定に向け、各事業の区としての考え方を示し、区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、提言書をまとめていきます。

分野	事業名	所管課
分野Ⅰ かがやくまち (防犯・生活安全)	六本木安全安心プロジェクト ～ルール一違反ゼロの六本木へ～	協働推進課
分野Ⅰ かがやくまち (防災)	「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～	協働推進課
分野Ⅰ かがやくまち (環境・エコ)	みんなでエコっとプロジェクト	まちづくり課
分野Ⅱ にぎわうまち (コミュニティ)	みんなでまちをよくする「ミナヨク」	協働推進課
分野Ⅱ にぎわうまち (多文化交流・コミュニティ)	AZABU WORLD FEST	協働推進課
分野Ⅱ にぎわうまち (歴史・文化)	麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～	協働推進課
分野Ⅲ はぐくむまち (コミュニティ)	地方交流事業	管理課 協働推進課
分野Ⅲ はぐくむまち (高齢者支援)	地域サロン ～ちょこっと立ち寄りカフェ～	区民課
分野Ⅲ はぐくむまち (生涯学習・歴史・文化)	麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～	協働推進課

■六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～

(所管課：協働推進課)

【目的】六本木地区の5つの主要課題「防犯」「環境美観」「路上喫煙」「道路使用」「営業活動」に対するまちのルールを規定した「六本木安全安心憲章」の浸透を図ることで、安全・安心なまちを実現していくことを目的とします。

【内容】地域の方々と協働により制定した“まちのルール”「六本木安全安心憲章」を、誰にでも分かりやすいルールとして周知・浸透させていくため、憲章の新デザインを活用した周知・啓発策や町会・自治会、商店会、事業所との協働によるキャンペーン活動、港区「六本木安全安心憲章推奨事業所等認証制度」の取組を実施し、安全で安心できるまちを実現していきます。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画				計
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度		
認証制度の実施 賛同事業所数:410件 キャンペーン実施 70回 来街者等への周知	認証制度の実施* 賛同事業所数:320件 キャンペーン実施* 34回	憲章制定5周年 記念イベントの実施	体感治安アンケート 調査の実施	アンケート調査結果に 基づく推進策の実施	認証制度の実施 賛同事業所数:90件 キャンペーン実施 36回 来街者等への周知	
		認証制度の実施(賛同事業所等の増加件数)				
		30件	30件	30件		
		キャンペーン実施				
		12回	12回	12回		
		来街者等への周知				
		屋外掲示物による周知	屋外掲示物による周知	屋外掲示物による周知		
事業費(千円)	9,404	7,560	3,564	4,860	15,984	

*平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業実績見込みです。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール及び区民等からの意見を踏まえて取り組んでいる内容

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
・六本木安全安心プロジェクト開催 (4/25, 5/30, 6/27) ・賛同事業所を増やすための周知活動	・賛同事業所等を増やすための周知活動 ・六本木安全安心プロジェクトの開催 (7/24, 9/19) ・六本木地区の体感治安に関するアンケートを実施(7月)	・賛同事業所等を増やすための周知活動 ・推奨事業所等認証制度申請受付 ・六本木安全安心プロジェクトの開催 (10/17, 11/28, 12/13)	・推奨事業所等認証審査会の開催 ・推奨事業所等認証式の実施 ・六本木安全安心プロジェクトの開催 (1/23, 3/12)
・平成30年度は、六本木安全安心憲章が制定5周年を迎え、広く憲章を周知していくため、商店街灯へのフラッグ掲出や東京電力地上機器への憲章啓発の表示やデジタルサイネージによる周知、店舗等の協力を得て、周知啓発を行いました。 ・前回(平成29年度)の政策分科会での意見を踏まえ、キャンペーンを実施する際のゼロ六本木のロゴの入ったベストを作成したり、実施に際しても周知方法などの工夫をしたりしています。			

【参考】前回(平成28年度～平成29年度)の麻布地区政策分科会での意見

- ・六本木らしくデザインを工夫したごみ箱などを設置して、憲章のルールを知らしめ、まちの美化につなげたら良いと思います。
- ・検証マークのTシャツを作成し、周知啓発活動に活用したらよいと思います。
- ・賛同事業所であることのアピールができるよう、店舗等の出入り口に憲章のステッカーを貼ったほうが良いと思います。
- ・賛同事業所であることで、チラシの印刷経費を軽減できる仕組みを作ってみたらよいと思います。
- ・賛同事業所は、飲食店が多いので憲章マーク入りのクーポンの配布やサービスを受けられるような賛同事業所の集客につながる仕組みを作ってみたらよいと思います。

【今後の事業実施(見直し)に向けた課題や評価、意見等】

区民等：事業への主な意見

■事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等

- ・良い取組なので、継続して実施してほしいです。
- ・もっと認知度をあげる取組をした方がよいです。

■区民アンケート調査結果(令和元年度：n = 341)

【認知度】知っている：21.7%、知らない：75.1%、無回答：3.2%

【期待度】期待できる：51.6%、どちらともいえない：31.7%、期待できない：7.9%、無回答：8.8%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■今後も来街者の増加が見込まれるなか、“六本木安全安心憲章”をさらに周知していく必要があるため、事業周知等に関する課題を改善しつつ、令和3年度以降も地域事業として継続する意向です。

- ・日本有数の繁華街である六本木は、今後も2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、多くの来街者、特に外国人の来訪が多く見込まれることから、安全安心への取組をさらに行っていく必要があるため、事業継続をしたうえでさらに拡充していく必要があります。
- ・賛同事業所は増加していますが、区民の事業認知度は低く、区民アンケート結果においても認知度は、前回よりも低くなっており(平成28年度24.1%)、周知につなげていないのが現状です。
- ・キャンペーンへの参加者が限定的であるため、活動の裾野を広げていく必要があります。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

■「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～

(所管課：協働推進課)

【目的】事業所の防災力の更なる向上と、災害時に地域と事業所が円滑に連携できるネットワークを構築することを目的とします。

【内容】麻布地区をいくつかの区域分けした上で、モデル地域を設定し、ネットワーク会議を設置していきます。また、事業所向けの講演会等の実施や区ホームページなどにより情報発信を強化していくことで、会議に参加しなくても情報が共有できる取組を実施します。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画			
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度	計
エリアごとの ネットワーク会議の 設置 1か所 講演会、ワークショップ 6回	事業所防災 ネットワーク全体会議 の実施*	エリアごとのネットワーク会議			調査結果を踏まえた エリアごとのネットワーク 会議の設置 1か所 講演会、ワークショップ 6回
		事業所へのアンケート 調査の実施 会議の設置に向けた 地区内のモデル地域 の選定	会議の試行設置 1か所	会議の本格設置 1か所	
事業費(千円)	9,283	5,400	5,000	5,000	15,400

*平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業実績見込みです。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール及び区民等からの意見を踏まえて取り組んでいる内容

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> 本村小地区防災協議会へのヒアリングと避難所運営マニュアルの作成。 本村小地区の参加事業者の抽出と参加依頼及び顔合わせ。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練、ワークショップの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 総合防災訓練への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会の開催 来年度の活動計画
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から事業名を変更して、地域と事業所の関わりを強める取組としてきました。 ネットワーク会議の小エリア化の一環として、モデル地区として本村小地区防災協議会のエリアを選定しました。今後、大使館や地区内の事業所の連携を深める取組を実施していきます。 防災講演会、ワークショップは、毎回、好評であることから引き続き実施していきます。 モデル地区として選定した本村小地区防災協議会のエリア内での事業所や大使館の連携強化のほか、地域防災協議会の活性化につながる取組としても支援を行っていきます。 			

【参考】前回（平成28年度～平成29年度）の麻布地区政策分科会での意見

- ・事業所防災ネットワーク会議は、規模が大きく伝わらないので小規模な単位（エリアを絞って）開催していった方がよいと思います。
- ・企業間のつながりを活用して、大企業だけでなく中小企業へ広げた方がよいと思います。
- ・参加事業所を対象とした講演会や勉強会を開催し、情報共有していくと良いと思います。
- ・麻布地区に特化した情報提供や防災用品の割引等、事業所の参加促進につながる取組をした方がよいと思います。
- ・ビルの防火管理者や事業所の防災担当者へアプローチしたほうがよいと思います。
- ・SNSやホームページを活用した情報発信や情報共有の方法を充実したほうがよいと思います。

【事業の課題、評価や意見等】

区民等：事業への主な意見

- 事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等
 - ・地域と事業者のつながりを強める取組はよいことです。
 - ・事業所防災ネットワーク会議の位置づけがよくわかりません。
 - ・防災講演会は、非常にためになった今後も継続して実施してほしいです。

■区民アンケート調査結果（令和元年度：n = 341）

【認知度】知っている：14.1%、知らない：82.7%、無回答：3.2%

【期待度】期待できる：52.5%、どちらともいえない：37.0%、期待できない：2.1%、無回答：8.5%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■平成30年度以降の事業改善の検証結果を踏まえる必要がありますが、防災に関する全庁的な事業化の動きなどに合わせ、事業廃止を含めた見直しを検討します。

- ・平成30年度から事業名を変更して、地域と事業者のかかわりを強める取組としてきた結果について、事業の効果性等を検証する必要があります。
- ・事業内容が区民からはわかりにくく、認知度が低い状況です。
- ・港区全体の防災に関する事業の中での位置づけを整理する必要があります。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

■みんなでエコっとプロジェクト

(所管課：まちづくり課)

【目的】子どもたちを対象に、知る・見る・体験することを通じて、自然環境や生き物を大切にすることを育んでもらうことを目的とします。

【内容】自然環境やリサイクルに関する取組を行う事業所等と連携し、バードウォッチングや生き物観察、自然散策、リサイクルなどをテーマに、参加する親子が自ら考え、学ぶことができるワークショップを実施します。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画			計
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度	
ワークショップの実施 27回	ワークショップの実施* 9回	ワークショップの実施(・自然観察・生き物観察・リサイクル、エコ)			ワークショップの実施 ・自然観察 ・生き物観察 ・リサイクル、エコ 18回
		6回	6回	6回	
事業費(千円)	2,245	1,706	1,706	1,706	5,118

*平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業実績見込みです。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール及び区民等からの意見を踏まえて取り組んでいる内容

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容の企画検討 ・第1回エコっとプロジェクトの開催(6/9:「トンボやヤゴがいっぱい!アークヒルズ仙石山森タワーでいきものを観察してみよう!」13組32名が参加) ・麻布地区政策分科会の提言を受け、平成30年度より、体験イベントの回数を年間3回から6回に増やしています。 ・これまで“環境やエコ”をテーマとして「生き物」や「自然」に関する体験イベントを開催していましたが、平成30年度からは、新たに「リサイクル」に関する体験イベントを、新たな主体と連携し追加開催しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回エコっとプロジェクトの開催(7/28:「すてきな花器を作ってお花をいけてみよう!」10組13名が参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回エコっとプロジェクトの開催(9/29:東京ミッドタウン5階国際・デザイン・リエゾンセンターで開催予定) ・第4回エコっとプロジェクトの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回エコっとプロジェクトの開催 ・第6回エコっとプロジェクトの開催

【参考】前回(平成28年度～平成29年度)の麻布地区政策分科会での意見

- ・自然とのふれあいが伝わる絵画展示をしてはよいのではないですか。
- ・回数と規模を拡大してほしいです。
- ・学校や子どもが多く集まる場所で周知したほうがよいです。
- ・多くの事業所との連携や事業所が所有する緑地を活用したほうがよいです。
- ・渡り鳥や昆虫の観察等、季節性のある活動や趣味に関するイベントを企画したほうがよいです。

【今後の事業実施(見直し)に向けた課題や評価、意見等】

区民等：事業への主な意見

■事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等

- ・都会の中の自然に目を向ける機会ができて良かったです。
- ・いつも訪れている場所ですが、新たな発見がありとても有意義でした。
- ・もの作りをするにあたって「自由」なアイデアで自由にももの作りを体験できる点が素晴らしいです。それがエコにつながると最高です。
- ・子どもが工作好きなので、それと自然観察のくみあわせなので、子どももやる気がでてよかったです。
- ・普段は遊具のある所にしか行かないですが、葉っぱや木の観察だけでも楽しいものなのだと再発見しました。
- ・身近な場所で様々な自然を発見できるところが良いと思います。
- ・「エコっとプロジェクト」という企画自体があまり良く知られていないと思いますが、学校の配布物等で知ることがあればまた参加したいです。

■区民アンケート調査結果(令和元年度：n = 341)

【認知度】知っている：16.7%、知らない：78.6%、無回答：4.7%

【期待度】期待できる：49.0%、どちらともいえない：37.2%、期待できない：3.8%、無回答：10.0%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■周知方法などの課題はありますが、参加人数も増加し、評価も高いことから、事業のさらなる改善を図り、令和3年度以降も地域事業として継続する意向です。

- ・平成30年度から追加した「リサイクル」に関する体験イベントを含め、どのイベントも参加者からはおおむね良い評価をいただいていることから、今後も引き続き参加者の意見等を踏まえ、事業内容を検証し、事業を継続していきます。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

■みんなでまちをよくする「ミナヨク」

(所管課：協働推進課)

【目的】 地域に愛着を持って地域活動を行う次世代のコミュニティリーダーを発掘・育成し、新しい地域のつながりを構築していくことを目的とします。

【内容】 20代から40代を対象に、“知（地域やアイデアのつくり方を知る）”、“感（地域を実際に見て、話を聞く）”、“創（地域をよくするアイデアを考える）”、“共（地域の皆さんに共感してもらう）”を行う講座「ミナヨク」を実施します。また、講座参加者のアイデアの実現に向け、講座修了生と地域との連携を支援するとともに、講座修了生同士の交流の場を創出することで、継続的に地域コミュニティに関わりが持てる取組を実施します。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画				計
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度		
講座の実施 184名 講座修了生の 交流イベントの実施 3回	講座の実施* (ワークショップ) 94名	講座の実施(ワークショップ、アイデアの検証)			講座の実施 (ワークショップ、 アイデアの検証) 90名	
		30名	30名	30名		
		講座修了生の交流イベントの実施			講座修了生の 交流イベントの実施 3回	
		1回	1回	1回		
事業費(千円)	12,098	7,500	7,500	7,500	22,500	

*平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業実績見込みです。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール及び区民等からの意見を踏まえて取り組んでいる内容

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> 講座内容の企画検討 講座参加者募集(6/27～8/9) 	<ul style="list-style-type: none"> 体験イベント実施(7/27) Day1実施(8/24) Day2実施(9/7) Day3実施(9/28) 	<ul style="list-style-type: none"> Day4実施(10/26) Day5実施(11/16) Day6実施(12/14) ミナヨク修了生交流イベント(1回) 自主活動(10/26、11/16、12/7) 	<ul style="list-style-type: none"> Day7実施(1/18) ミナヨク修了生交流イベント(1回)
<ul style="list-style-type: none"> サポートを充実させるために、支援業者の担当者を複数体制としました。 参加者同士の交流を促すために講座終了後に交流の場を設けています。 去年までは終日講座が数日開催していましたが、すべての日程を半日にして、時間を短くしました。 令和元年度は平日夜間や土曜昼間開催から、すべての日程を土曜日の午後開催とし、参加者が参加しやすいようにしました。 周知チラシを麻布地区の区立幼稚園、保育園、小学校及び中学校の全園児、児童、生徒の人数分に配布しました。 			

【参考】 前回(平成28年度～平成29年度)の麻布地区政策分科会での意見

- ・地域とのつながり、活動の場を求める区民等へのきっかけづくりとして、事業継続して欲しいです。
- ・ミナヨク修了者と町会・自治会、商店街とつながるサポーター制度をつくらよと思います。

【今後の事業実施(見直し)に向けた課題や評価、意見等】

区民等：事業への主な意見

■事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等

- ・ミナヨクで活動したことで、自分から行動を起こせることに気づくことができました。活動を行っていくには仲間が必要なので、ミナヨクで出会った仲間たちと活動していきたいです。
- ・新しい共助のあり方を築きあげられたので、とても良い企画でした。
- ・たくさんの学びがあった。大事なのはこれから自分がどう動くかが重要だと気づけました。
- ・会社と家庭以外の場所で新しい活動に参加できました。
- ・一人で考えていると凝り固まってしまうが、複数人でアイデアを練ることで、広がりや生まれることを感じ、色々な人の意見に価値があると思いました。
- ・麻布のまちに興味がある方々が多く、具体的な取組までを行うプログラムが良かったです。
- ・他地域の類似事業と比べ、若い参加者が多いのは良いです。
- ・ゲストトークが参考になりました。
- ・まちづくりに関してビギナー向けの価値がありました。
- ・チーム全体の底上げをするサポートがなかったです。
- ・序盤はもう少し全体としての交流が促せた方が良かったです。
- ・拘束時間が長く、参加者に偏りが出ていました。集まりの悪い日が多々見られました。

■区民アンケート調査結果(令和元年度：n=341)

【認知度】 知っている：12.3%、知らない：83.6%、無回答：4.1%

【期待度】 期待できる：44.3%、どちらともいえない：40.5%、期待できない：5.0%、無回答：10.3%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■地域のリーダーを育成する講座の実施方法や講座終了後のあり方等については課題があるため、事業内容の改善・見直しを図り、令和3年度以降も地域事業として継続する意向です。

- ・事業開始から5年目を迎え、若い世代を中心に地域のリーダーを養成してきましたが、地域でのさらなるつながりや修了生の活躍の場の提供や参加者の減少などの課題もあり、事業を検証し、今後はより効果的な事業として見直していく必要があります。
- ・これまでに73名の修了生が17のアイデアを創出しましたが、現在も継続しているアイデアは1つ。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

■AZABU WORLD FESTA

(所管課：協働推進課)

【目的】地域や行政が実施するイベント等に参加したことのない区民が、気軽に参加できるイベントを通じて、地域を知り、様々な人々と交流できる機会を創出することで、地域コミュニティの活性化を図ることを目的とします。

【内容】国際色豊かな地域の特色を生かし、外国人をはじめ、子どもから高齢者まで世代を問わず好まれるスイーツ等と麻布地区の文化・歴史資源を巡りながら楽しめるイベントを実施します。イベントの実施に当たっては、これまでに培ってきた地域の人材を活用するとともに、麻布地区の商店会や企業、大使館等と協働し、外国人でも気軽に参加可能な周知方法を工夫します。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画			
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度	計
イベントの実施 3回	—	イベント(スタンブラー&交流イベント)			イベントの実施 3回
		イベントの企画 試行イベントの実施 1回	イベントの実施 1回	イベントの実施 1回	
事業費(千円)	31,188*	4,038	6,460	6,460	16,958

*「AZABU WORLD FESTA」は、平成29年度まで実施していた「麻布国際ふれあい事業」と「麻布フェスタ」を統合した事業です。そのため、平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業費は、2事業の合計額です。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール及び区民等からの意見を踏まえて取り組んでいる内容

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> イベント内容の企画・検討の実施 実施時期検討 他課との調整 	<ul style="list-style-type: none"> 契約準備(見積書の請求および必要経費の概算) 委託事業者の決定 契約手続き 出展国(大使館)との調整 	<ul style="list-style-type: none"> 総合防災訓練での英語通訳ツアー(11月) ラリーイベント実施日程(予定)11月上旬～下旬 	<ul style="list-style-type: none"> 地方交流事業との連携

【参考】前回(平成28年度～平成29年度)の麻布地区政策分科会での意見

- ・ミナヨク修了者の活躍の場として、スイーツフェスタ、街コン、地域特性イベントを開催してみたらよいと思います。
- ・イベント実施にあたっては、区民ボランティアの活用をしてみたらよいと思います。

【今後の事業実施(見直し)に向けた課題や評価、意見等】

区民等：事業への主な意見

■事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等

【カードラリー】

- ・カードラリーは、多くの参加者が参加できてよかったと思います。
- ・参加者からの意見聴取の機会を設けた方がよいと思います。
- ・広報の仕方や実施機関、参加世代の拡大など見直しをした方がよいと思います。
- ・スイーツやベーカリー以外の店舗も範囲を広げてほしいです。
- ・開催期間を拡大してほしいです。

【小鹿野町との交流】

- ・小鹿野町との文化交流は、南山小学校とも連携できてよかったです。
- ・日本の伝統文化が地域に根付いていて感動しました。
- ・体験できたのが良かったです。
- ・とても有意義で子どもも大人も楽しめて、参加できてよかったです。
- ・もう一度歌舞伎を見てみたい。

【ザ・民謡】

- ・伝統文化を後世まで続けてほしい。
- ・港区にいながらにして本格民謡をたくさん聞きたいです。
- ・とても良い企画。若い人にも聞いてほしい。

■区民アンケート調査結果(令和元年度：n = 341)

【認知度】知っている：21.1%、知らない：74.5%、無回答：4.4%

【期待度】期待できる：55.4%、どちらともいえない：29.9%、期待できない：4.4%、無回答：10.3%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■実施しているイベントについて、参加者のニーズを把握、区民や麻布地区政策分科会でのアイデア等を反映しつつ、事業内容の充実を図り、令和3年度以降も地域事業として継続する意向です。

- ・麻布フェスタと国際ふれあい事業を統合し、平成30年度は試行で事業を実施しました。今後は、事業内容を検証し、より効果的な事業となるよう、地域SNSアプリ「PIAZZA」やウェブサイトを広報・イベント参加ツールとして活用し、参加者を増やす取組や地域資源をより活用していくよう、見直しをしていく必要があります。
- ・開催期間や参加店舗数の拡大をしていきます。
- ・地方交流事業で交流のある埼玉県小鹿野町へのジオツアー参加応募券で、子育て世代の関心を高めます。
- ・ジオツアー参加応募券等で参加者の声を聴き、ニーズを把握して、来年度以降に反映します。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

■麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～

(所管課：協働推進課)

【目的】麻布地区の歴史やまちの移り変わりを、写真をとおして広く伝えていくことで、地域への共感や愛着を深めてもらうことを目的とします。

【内容】区民参画組織「麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」が主体となり、麻布地区の昔の写真を収集するとともに、定点写真等を撮影し、まちの変化を保存していきます。
また、企業、大学、他の地域事業との連携によるパネル展の開催、ICT（情報通信技術）を活用した写真パネルの公開を行います。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画			
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度	計
パネル展開催 35回	パネル展開催* 14回	パネル展開催 ・麻布地区総合支所 ・ありすいききプラザ ・麻布図書館 ・フジフィルムスクエア ・東洋英和女学院 ・地区内の銀行及び病院			パネル展開催 21回
パネルの常設展示 4か所	パネルの常設展示* 4か所	パネルデータの公開 ICTを活用した公開 ICTを活用した公開 ICTを活用した公開			パネルの常設展示 4か所
事業費(千円)	13,636	3,996	4,540	4,540	13,076

*平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業実績見込みです。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール及び区民等からの意見を踏まえて取り組んでいる内容

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
・分科会開催：4回 (4/18、5/15、6/6、6/9・15) ・まち歩き(撮影)：2日程 ・パネル企画展示：1回 (麻布地区総合支所：6/18～)	・分科会開催：2回 (7/11、9月上旬) ・パネル作成(グループワーク) ・パネル企画展示：1回 (新たな場所での企画を予定)	・分科会開催：3回 ・まち歩き(撮影)：2日程 ・パネル作成(グループワーク) ・パネル企画展示：1回 ・交流イベント：1回 (地域サロンとの連携)	・分科会開催：3回 ・パネル作成(グループワーク) ・パネル企画展示：2回 (5か所での開催を予定) ・交流イベント：1回 (地域サロンとの連携)
・パネル常設展示(麻布地区総合支所2階、麻布区民協働スペース、都立中央図書館、有栖川宮記念公園事務所掲示板、ほか1か所検討中) ・成果物(これまでに作成したパネル等)の活用方策検討及びICT(AR技術)を活用した情報発信の実施 ・地域SNSアプリ等を活用した事業周知やメンバー募集、資料募集の検討・実施			

【参考】前回(平成28年度～平成29年度)の麻布地区政策分科会での意見

- ・他の事業と連携し、新たな場所でのパネル展の開催を希望します。
- ・写真にこだわらない今昔の比較展示等を企画したらよいと思います。
- ・港区ホームページからの情報発信と併せ、SNSを活用したらよいと思います。
- ・企業や大学と連携し、モバイルアプリを作成してみたらよいと思います。

【今後の事業実施(見直し)に向けた課題や評価、意見等】

区民等：事業への主な意見

■事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等

- ・麻布の今昔がわかる貴重な写真展示の数々、とても興味深く見させていただいた。
- ・この先麻布のまちはどう変化してくのか、子どもと一緒に考える機会となりました。
- ・再開前の昔の麻布の写真を見られ、なつかしい気持ちになりました。
- ・よい企画展、もっとやって欲しいです。
- ・AR体験パネルは、機器の説明がわかりづらかったです。
- ・戦前の写真をたくさん見たいです。
- ・平成30年間を通して街並みがどう変わったのかの展示をしてほしいです。
- ・全体にパネルがコンパクトにまとめられていて、ちょっと詰め込み過ぎのように感じました。

■麻布未来写真館分科会メンバーからの意見

- ・分科会メンバーをもっと増やしていく必要があると思います。
- ・他の事業との連携や管内学校等との交流・連携を進めていきたいです。
- ・常設展示場所での展示方法等について検討の余地があります。
- ・事業周知用のパンフレット等を作成し、分科会メンバーが積極的に周知活動をしていきたいです。

■区民アンケート調査結果(令和元年度：n=341)

【認知度】知っている：31.4%、知らない：64.2%、無回答：4.4%

【期待度】期待できる：44.9%、どちらともいえない：39.3%、期待できない：5.9%、無回答：10.0%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■区民や分科会等からの課題や新たなアイデア・意見を踏まえ、事業の一部手法の改善を図り、令和3年度以降も地域事業として継続する意向です。

- ・これまでの成果物としてのパネルがアーカイブとしてしっかりと保存されている一方、今後はその整理と活用方法の検討について力を入れていく必要があります。
- ・現行計画ではICTを活用した情報発信ということでARを活用したパネルや画像の公開を実施しましたが、次期計画では次の展開を検討する必要があります。
- ・事業周知のため、分科会メンバーによる地域SNSアプリ「PIAZZA」を活用した情報発信を試行中。また、これまでの成果であるパネルの貸出しや公的な施設や機関以外での展示、他の事業との連携イベント等の実施の具体案の検討を予定しています。
- ・分科会メンバーが固定化の傾向にあり、新たなメンバーや多様な意見の取り入れを積極的に行っていく必要性を感じていたため、参加メンバー募集ちらしの作成による新メンバーの参加促進、六本木高校や東洋英和の学生との交流による新たな取組を検討しています。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

■地方交流事業

(所管課：管理課・協働推進課)

【目的】豊かな自然を体験する機会を設け、児童の健全育成を促すとともに、他自治体との交流をとおして互いの地域の魅力や歴史を知る機会を創出することを目的とします。

【内容】自然や農業、伝統文化などを体験できる交流事業を実施することにより、児童の健全な育みを促すとともに他自治体への関心が深まる取組を実施します。また、地域のイベントの際に特産品の販売を行うほか、交流事業実施時に現地児童との交流を図るなど、双方向の交流事業とします。新たな自治体との交流事業については、「自治体間連携推進の基本的な考え方」に基づき、麻布地区との連携・交流が可能な自治体を調査し、交流事業を企画していきます。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画			
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度	計
交流事業 227名	交流事業実施* 107名	交流事業			交流事業 120名
		40名	40名	40名	
新たな交流事業		新たな交流事業			新たな交流事業
		交流先の調査	交流先の調査・連携 事業の企画	新たな交流事業の 企画	
事業費(千円)	11,914	3,482	3,482	3,482	10,446

*平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業実績見込みです。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> 山形県舟形町役場と打ち合わせ(4月～6月 月数回程度) 舟形町視察(5月) 参加者募集(6月)*1 	<ul style="list-style-type: none"> 公開抽選会、参加者決定(7月) 参加者説明会(7月) 実施日(8月2日～4日) 	<ul style="list-style-type: none"> 「麻布地区サマースクール in 舟形町」パネル展実施(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 舟形町と打ち合わせ(2月：日程、宿泊施設) 日程確定、参加者及び募集対象確定(3月)
*1 チラシ配布対象団体：71団体、チラシ配布枚数：約4,000枚			
<ul style="list-style-type: none"> 小鹿野町役場と打ち合わせ(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> 小鹿野町PR出展(9月)*2 	<ul style="list-style-type: none"> 小鹿野町へのツアー(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> 小鹿野の歌舞伎芝居(2月)*3 小鹿野町PR出展(2月)*2
*2 会場：麻布地区総合支所及び区役所ロビー、*3 会場：麻布区民ホール			

・子どもの参加人数を増やすべきといったご意見をいただき、令和元年度からは保護者の参加人数が子どもの参加人数を超えないように、1家族に対して保護者の参加人数が子どもの参加人数を超えないようにチラシに記載し参加者の募集をかけました。

・舟形町立舟形中学校の生徒による舟形町の特産品の物販と町のPRとして「縄文の女神」等の土器についてのプレゼンを麻布地区総合支所で実施しました。さらに、舟形町の指定無形民俗文化財「堀内田植え踊り」の披露も行いました。

・麻布地区総合支所のレストランささらで舟形町特産品(マッシュルーム等)を使用したランチを提供しました。

・パネル展以外にも舟形町との継続的な交流ができるように7月中旬に舟形町の歴史等に関する学習会を実施予定です。

・麻布十番商店街と交流が深い埼玉県小鹿野町の協力により、小鹿野の地元歌舞伎芝居の化粧、着付け、立ち回りや和楽器の演奏など日本文化体験イベントを行いました。

【参考】前回(平成28年度～平成29年度)の麻布地区政策分科会での意見

- ・保護者の人数を減らして、子どもの参加を増やすべきです。
- ・地方との継続的なつながりがあるとよいです。
- ・一方向にならない取組、逆に港区に来てもらえるような事業があるとよいです。
- ・パネル展を拝見し、参加者の満足度が大変高い事業であると感じたので継続して欲しいです。
- ・提携先を増やしていくとよいです。

【今後の事業実施(見直し)に向けた課題や評価、意見等】

区民等：事業への主な意見

■事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等

- ・なかなか山や川に行くことのない子にとって、とても有意義な時間を過ごせました。
- ・子どもは舟形町に住みたいといっています。
- ・鮎のつかみ取りも、虫取りも一人だと(家族だけ)しないが、みんなでするので、出来ないこともトライできるようになりました。
- ・盛り沢山な内容とスタッフ皆さんのお蔭で、親子ともども楽しく過ごしました。ありがとうございました。
- ・初めて陶芸をやったこと、勾玉づくりをしたこと、近くで花火が見られたことが楽しかったです。

■区民アンケート調査結果(令和元年度：n = 341)

【認知度】知っている：13.8%、知らない：81.2%、無回答：5.0%

【期待度】期待できる：37.0%、どちらともいえない：49.6%、期待できない：3.8%、無回答：9.7%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■参加者からは好評を得ていることから、内容の改善を図りつつ、継続的な交流ができるよう、令和3年度以降も地域事業として継続する意向です。

- ・山形県舟形町との交流事業に加え、平成30年度から埼玉県小鹿野町との交流事業を新たに実施しています。今年度は麻布地区の小中学生が小鹿野町へ訪問して、双方間での交流を実施します。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

■地域サロン ～ちよこっと立ち寄りカフェ～

(所管課：区民課)

【目的】高齢者が、住み慣れた地域で孤立することなく、安心して自分らしくいきいきと生活できるよう気軽に集い学べる場を提供するとともに、地域におけるボランティアを養成し、地域住民が互いに支え合う仕組みづくりを支援していくことを目的とします。

【内容】高齢者が誰でも気軽に立ち寄り「ふれあい・憩い」と「いきがい・自己啓発」の場である地域サロンを実施するとともに、他の地域事業等と交流できる機会を設けることで、様々な世代の参加を促します。また、事業周知の充実や運営に携わる地域ボランティアの養成も実施していきます。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画			
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度	計
サロンの運営 232回	サロンの運営* 112回	サロンの運営 ・飯倉いきいきプラザ ・ありすいきいきプラザ ・西麻布いきいきプラザ ・南麻布いきいきプラザ			サロンの運営 120回
ボランティア養成 49名	ボランティア養成* 19名	40回	40回	40回	ボランティア養成 30名
事業費(千円)	10,265	3,370	3,370	3,370	10,110

*平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業実績見込みです。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール及び区民等からの意見を踏まえて取り組んでいる内容

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
・地域サロン（ちよこっと立ち寄りカフェ）の運営・開催（12回：4/3、11、18、24、5/1、9、16、22、6/5、13、20、26）延234名 ・ボランティア養成講座の実施（5/15、29、6/5）4名	・地域サロン（ちよこっと立ち寄りカフェ）の運営・開催（8回：7/3、11、18、24、9/4、12、19、25）	・地域サロン（ちよこっと立ち寄りカフェ）の運営・開催（12回：10/2、10、17、23、11/6、14、21、27、12/4、12、19、25）	・地域サロン（ちよこっと立ち寄りカフェ）の運営・開催（8回：1/8、9、16、22、3/4、12、19、25）

【参考】前回（平成28年度～平成29年度）の麻布地区政策分科会での意見

- ・男性の参加者を増やすためのコンテンツを充実させるとよいと思います。
- ・他の地域事業の成果物や人材を活用するとよいと思います。
- ・会場の施設特性を活用して世代を超えた交流の場を創出するとよいと思います。

【今後の事業実施（見直し）に向けた課題や評価、意見等】

区民等：事業への主な意見

■事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等

【参加者が「また来たい」と思った理由】

- ・幸せになれるから / 楽しいから / 色々な人と話が出来るから / いろいろ楽しいことを知るチャンスである / なごやかなこと / うれしい / テーマが楽しい / いろいろと計画をたててくださり話しもできるし元気をいただいて楽しい / 話しと笑いがある / お友達ができる / とてもやさしく色々おしえてくれる / 料金は安く参加しやすい / スタッフさんが大勢いらしてヘルプして下さる

■事業運営スタッフからの意見

- ・一人ひとりの参加者によりきめ細かく対応できるよう、運営スタッフ及びボランティアのスキル向上を図ります。
- ・男性参加者の増加を図ります。
- ・参加人数が多いときにも円滑な運営ができるよう準備します。
- ・より多くのボランティアにかかわってもらえるよう、地域でのサロンの周知を充実させます。

■区民アンケート調査結果（令和元年度：n = 341）

【認知度】知っている：19.1%、知らない：76.8%、無回答：4.1%

【期待度】期待できる：49.6%、どちらともいえない：34.9%、期待できない：5.9%、無回答：9.7%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■参加者からは好評を得ていることから、運営ボランティアの養成等の課題を改善しつつ、令和3年度以降も地域事業として継続する意向です。

- ・ちよこっと立ち寄りカフェを定期的に開催し、より一層地域に事業を浸透させていきます。
- ・他の地域事業の成果や人材を活かしたサロン運営を促進します。
- ・参加者やスタッフ、講師など、サロンを通じて地域における交流が広がるよう努め、地域の方による運営ボランティアを養成していきます。
- ・若い世代が参加できるイベントの開催などにより、多世代交流の取組を充実します。
- ・参加者の男女比が男1：女9のため、男性参加者を増やす取組が必要です。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

■麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～

(所管課：協働推進課)

【目的】区民等が、麻布地区の歴史や文化などの魅力を知り、知ったことを次世代へ語り伝えていくことで、地域への関心や愛着を深めてもらうことを目的とします。

【内容】麻布の歴史や文化などの魅力を伝える公開セミナーを、麻布図書館等と連携して開催します。また、これまでのあざぶ達人倶楽部の講座修了者によるまち歩きの実施や、他の地域事業と連携して麻布の歴史を語る場を創出することで、区民等に対して麻布の魅力を学ぶ機会を提供していきます。

【麻布地区版計画書に計上した事業計画】

全体計画目標 平成32(2020)年度末	平成27(2015)年度～ 平成29(2017)年度	事業計画			
		平成30(2018)年度	平成31(2019)年度	平成32(2020)年度	計
公開セミナーの開催 6回	講座の実施*	公開セミナーの開催			公開セミナーの開催 6回
既存まち歩きマップの 再編集、活用 4種類		既存まち歩きマップの再編集、活用			既存まち歩きマップの 再編集、活用 4種類
他事業との連携 2回		他事業との連携			他事業との連携 2回
ラボの運営		ラボの運営			ラボの運営
事業費(千円)		21,538	4,493	4,500	4,500

*平成27(2015)年度～平成29(2017)年度の事業実績見込みです。

【令和元年度の事業計画及び取組の詳細：4～7月は実績】

年間スケジュール及び区民等からの意見を踏まえて取り組んでいる内容

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> キックオフミーティング 図書館連携セミナー打合せ 企画会議開催 まち歩きガイドツアー企画会議 	<ul style="list-style-type: none"> 全体会 図書館連携セミナー企画会議 まち歩きガイドツアー企画会議 地域サロンとの連携セミナー打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> 全体会 地域サロンとの連携セミナー開催(10月) 図書館連携セミナー開催(11月) 講演会講師との打合せ まち歩きガイドツアー(計4回) 	<ul style="list-style-type: none"> 全体会 地域サロンとの連携セミナー開催(1月) 講演会実施(3月開催予定) 来年度活動内容の検討
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度からラボを中心とした運営に事業内容を見直しました。 多くの方が参加できるようにまちあるきの回数を2回から4回に増やす予定。 イベント参加者から得た新しい情報を「あざぶカルタ」の一部更新に反映します。 ガイドとして活用する機会を設けるため、ちょこっと立ち寄りカフェや麻布図書館と連携して講演会やセミナーを引き続き行います。 			

【参考】前回(平成28年度～平成29年度)の麻布地区政策分科会での意見

- ・受講生だけでなく一般区民も参加できる公開講座をつくったらよいと思います。
- ・歴史上の一時点に焦点をあてた講座内容で実施したらよいと思います。
- ・他の地域事業と連携し、歴史を語り継ぐ場をつくっていったらよいと思います。
- ・修了生を講師やボランティアガイドとして派遣したらよいと思います。
- ・受講生が作成したマップの配布場所を拡大し、利用促進につなげたらよいと思います。

【今後の事業実施(見直し)に向けた課題や評価、意見等】

区民等：事業への主な意見

■事業を見学、参加した方からの意見、またはアンケート結果等

【まちあるき】

- ・知らない場所であったり、発見するも多くあったり、個人ではなかなか歩けないコースを楽しく歩きました。
- ・標示板などが何もないところでも説明があつてよかったです。

【講演会】

- ・スリパチへ地形への愛があふれ出す。楽しいお話でした。高低差ソフトを画面に重なる表現手法は大変わかりやすく、興味をそそられました。プレゼンとしても明解でよかったです。
- ・近代的なイメージの多い港区ですが、谷町には昔ながらの町が広がっていることを知り、大変興味深いものがありました。
- ・疑問と思っていたことの解決につながり、改めて街歩き楽しんでみたいと思いました。
- ・町と地形を通して俯瞰してみるきっかけを得て、勉強になり、とても楽しかったです。
- ・50年以上住んでいて、川や街並み、旧建築物、坂などは見てきましたが、地形(谷地、窪地)という観点からは考えたことがなかったため、街歩きに新たな視点を与えていただいたと感じています。

■あざぶ達人ラボメンバーからの意見

- ・まちあるきは好評ですぐに定員に達したため、参加できない方がいました。
- ・ちょこっと立ち寄りカフェとの連携事業で得た情報を(以前作成した)「あざぶカルタ」の更新に生かしたいです。
- ・連携事業の継続と周知方法の工夫をする必要があると思います。

■区民アンケート調査結果(令和元年度：n = 341)

【認知度】知っている：19.1%、知らない：76.8%、無回答：4.1%

【期待度】期待できる：44.3%、どちらともいえない：41.6%、期待できない：5.6%、無回答：8.5%

所管課：次期麻布地区版計画書の策定に向けた、同事業の方向性と課題等

■平成30年度から事業を改善し、参加者からは好評をいただいているため、周知方法等に関する課題の改善を図り、令和3年度以降も地域事業としてする意向です。

- ・若い世代の参加が少ないので、若い世代が参加できるよう事業内容を工夫します。
- ・事業周知のため、広報みなど、区のFacebookや地域SNSアプリ「PIAZZA」を積極的に活用し、事業周知に関する課題等の改善を図ります。
- ・「あざぶカルタ」や「まちあるきマップ」等、成果品の作成及び活用をします。
- ・他の事業と更なる連携を図ります。

分科会：同事業についての提言作成に向けた方向性と検討すべき主な課題等

■

区民参画組織のみなさんから意見を聴取し、記入をします。

各地域事業についての主な意見

(第2・3回分科会での全体討議での各グループ発表の概要)

【分野Ⅰ かがやくまち】

- ・主に「六本木安全安心プロジェクト」について課題があがった。
- ・生活安全だけでなく、防災についても、様々な課題があり、その課題をどのように周知していくのが非常に難しい。周知というときに、誰をターゲットにしていくのかをはっきりさせないといけない。
- ・支援部での取組と重複しない、麻布地区独自でやっていけることを認識して、それらの点について取り組んでいくべき。

■六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～

- ・六本木なので客引きとかお店の看板で通行や自転車が危ないという問題。あと喫煙によるポイ捨て、外国人や日本人、区外の方が多いので、そういった方々に「六本木安全安心プロジェクト」の取組をどのように周知させるのかというのが非常に難しいというのが課題。
- ・六本木地区における課題のうち、自転車に関する課題についての意見が多く出た。自転車の危険走行についても課題として認識し、対応を考えるべきではないか。
- ・まちのルールとして「六本木安全安心憲章」はあるが、注意や指導をする権限というのが誰にでもあるわけではない。ルール違反を誰が注意するのかという課題もある。
- ・全庁的な取組として「みなとタバコルール」があり、「六本木安全安心憲章」でも路上喫煙の禁止をうたっている。支援部での取組と重複している部分について、どのように推進していくのか、その関係性等を整理していく必要がある。

■「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～

- ・企業と地域との連携をどのように進めていくのかということが疑問であり、課題でもある。
- ・防災について、年に一回、六本木中学校で総合防災訓練があるが、それを知らない人が多い。地域のためにもとても大切なことだという周知が大切。

■みんなでエコっとプロジェクト

- ・どのような取組をしているのか、文章・口頭の説明だけではイメージがわからないので、実際に見学に行く、参加する、または事業の実施状況についての動画を見せてもらうと分かりやすい。
- ・エコに対する取組が、学校教育のカリキュラムにあるのであれば重複した取組を行う必要はないと思う。もし、ないのであれば、まだまだ残っている麻布の自然を活用して、身近なところで自然を体験してもらうという取組をすれば、もっと負担が少なくできるのではないか。
- ・イベント内容について、エコとリサイクルを組み合わせた取組、特にリサイクルの一環として取り組むイベント等について検討していく必要がある。

【分野Ⅱ にぎわうまち】

- ・「にぎわうまち」というキーワードに関する魅力として、大使館が多くグローバルなイメージ、麻布十番商店街を中心に活気があり、おいしいお店も多い、高級感と下町のギャップ、歴史・文化の街等があげられた。
- ・地域事業等についての情報発信が課題である一方、民間でも様々なイベントが行われている麻布地区では情報が多すぎて、その取捨選択をするのも難しく、情報の整理も必要になる。
- ・東洋英和等の学生のパワーも地域の資源として活用していけないだろうか。
- ・犬などのペットを連れて散歩をしている人が多い、ペットとまちと人が触れ合う、そんな機会を創出できると良い。
- ・地域を代表する資源でもある有栖川宮記念公園を大切にしていける、例えば環境美化・清掃活動等と組み合わせたイベントを実施する等、より良いまちづくりに向けた楽しいイベントがあればよい。

■ミナヨク

- ・次世代リーダーの育成が目的となっているが、その部分ができているのかが課題。
- ・目的を達成しているかの検証を行う必要がある。例えば修了生を対象としたアンケート等。
- ・開催日時について調整行い、土曜日の午後開催となっているが、20代から40代の方には厳しい時間帯かと思う。
- ・1クールのみでの参加、リピートして参加できないというなかで、6回のプログラムで良い提案をつくり上げる、次世代リーダーを育成するというは難しいのではないか。
- ・修了後の活動等についていろいろな課題がある（修了生がその後、どのような活動をしているのか等の情報を区がしっかり把握する必要がある）。

■AZABU WORLD FESTA

- ・分科会での提案をもとに実施されている事業だが、思っていたものと相違がある。まだまだ検討すべき課題が多すぎるという感じがするので、実施内容についての提案も含め時間をかけて検討したい。

■麻布未来写真館

- ・常設展示も企画展示も実際にパネル展を開催している期間に、その場所にはいかないとみることができないという課題がある。その課題を解消するためにデジタル化とWeb上での公開をより進めていくべきだと思う。
- ・展示されているパネルの説明だけでは分からないことが多いので、ガイドを付けて見ることができると良い。または、ガイドの方が麻布未来写真館のパネルを活用できるようにしたら良いと思う。
- ・テーマやコンセプトを前面に打ち出したパネル展やパネル作成を行うことで、面白が増すのではないか。
- ・集客や周知を考えるのであれば、六本木ヒルズなど人が多く集まる場所をパネル展の会場として検討してはどうか。人が多く集まる場所で、しっかりと集客することによって「麻布未来写真館」の良いところを伝えられるのではないか。
- ・SNSでハッシュタグ付きの投稿をする人が多いので、それをうまく活用して、参加型のパネル展等を実施したら楽しいイベントになるのではないか。

【分野Ⅲ はぐくむまち】

- ・年代別に分けた取組になってしまっているのが、多世代にわたる事業を創出したほうが刺激的で良いと思う。
- ・「はぐくむまち」のテーマでもある「福祉」について、高齢者だけではなく、障害者の視点も意識して検討したい。
- ・どの事業についても、今後も継続していいと思うが、+αの提案をしたいという意見が出た。

■地方交流事業

- ・区民アンケートによる評価ではなく、この事業の対象者に対してのアンケートを行うことにより、しっかりとフィードバックを得ることが必要。
- ・サマースクールについては、区が全額負担する部分ではないということで、事業費の内訳を合わせて説明していただきたいと思う。
- ・以前は、リピーターが多いのではないか、区外の方が参加しているのではないかという指摘が出ていたようだが、現在は麻布地区での募集、公開抽選を行い、参加者を決定しているので改善されているのではないか。

■地域サロン ～ちょこっと立ち寄りカフェ～

- ・麻布地区にある4か所のいきいきプラザで開催している「ちょこっと立ち寄りカフェ」の参加者の約7割がリピーターということで、もっと参加者を増やしていきたい。
- ・参加者の男女比が1：9という状況にある。男性の参加を増やす工夫をすることで、雰囲気も変わってくるのではないかな。
- ・NPO法人が継続的に運営を受託している良い面として、過去の状況等をしっかり把握できている。また、高齢者福祉を意識したNPO法人が受託しているという面は良い。一方、新しいアイデアが生まれてこないという弊害もあるかと思うので、この分科会で新しいアイデアを提案できたらいいと思う。
- ・高齢者だけを対象にするのではなく、障害者等も含めた取組、共生やバリアフリーの視点を意識した取組の推進は、この事業で対応できる課題だと思うので、ぜひ実現させたい。

■麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～

- ・麻布の魅力を探訪する活動（まち歩き等）が平日の昼間ということだと、若い人はまず参加できない。せっかく良いコンテンツがあるのに、うまく使うことができていない。
- ・「ラボ」については、「ミナヨク」と似たようなところがあるので、連携が出来る部分があるのではないかな。
- ・この事業でつくり上げたアウトプットとして「マップ」等があるが、それが全く生かされていないように思う。例えば、学校の授業で地元の歴史や地域に関する自由研究を行ってみましょうという課題があるので、それと紐づければ自然と魅力を若いうちから勉強する機会に繋がっていくのではないかな。